

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

2026年6月期 通期決算説明資料

フィーチャ株式会社（東証グロース4052）
2026年8月14日



1. 通期決算サマリー

2. 2026年6月期（通期）決算概要

3. 各事業の進捗状況

4. 成長戦略と2027年6月期業績予想

Appendix



売上高

543百万円

(前期比 + 9.3%)

営業利益

41百万円

(前期△11百万円)

主要ハイライト

- **過去最高の売上高と黒字転換**

- └ 売上高は過去最高を更新、営業利益も黒字を確保し、成長投資を継続しながら収益面が改善

- **ライセンス収入の伸長**

- └ 当社ライセンス製品搭載車両の量産台数の増加により、ライセンス収入が前期比68.6%増加

- **大手自動車部品メーカー（Tier1）からの追加受注**

- └ 受注案件は複数年継続する見通しで、今後の中期的な安定売上に寄与

- **中国北京子会社を清算**

- └ 経営効率の改善の観点から、子会社を清算し、2026年6月期第4四半期より単体決算へ移行

- 
1. 通期決算サマリー
 2. 2026年6月期（通期）決算概要
 3. 各事業の進捗状況
 4. 成長戦略と2027年6月期業績予想

Appendix

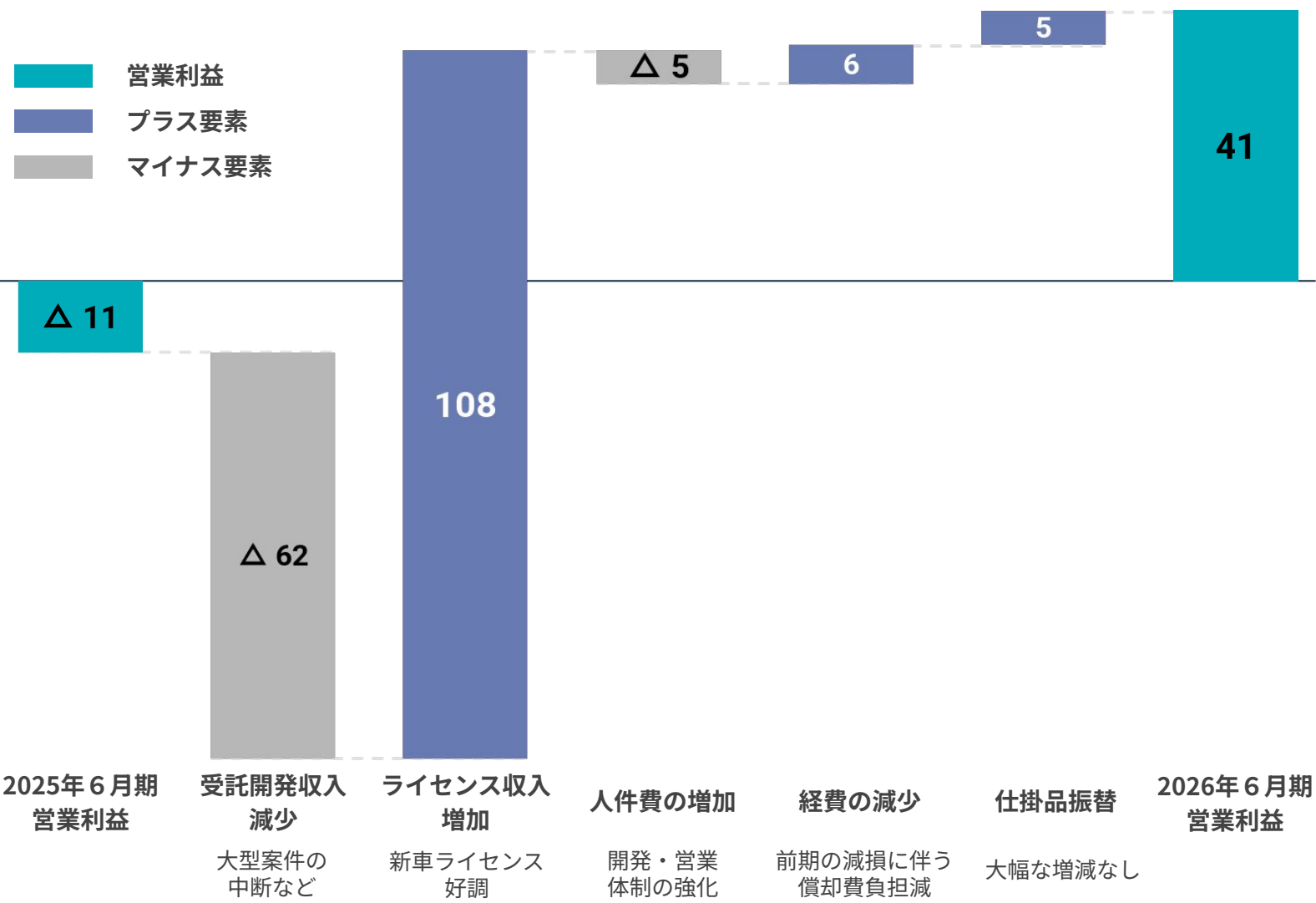
売上高は過去最高を更新、黒字転換。
受託開発収入は共同開発案件の中断により減少したが、ライセンス収入の大幅増加により、収益性が改善。

	(単位：百万円)	2025年 6 月期	2026年 6 月期			
		前期実績	当期実績	前期比	当初予想(※)	予想比
売上高		497	543	+9.3%	540	+0.6%
	うち、受託開発収入	339	277	△18.2%	395	△29.8%
	うち、ライセンス収入	157	265	+68.6%	145	+83.2%
売上原価・販管費		508	502	△1.2%	523	△4.0%
	うち、人件費	292	297	+1.7%	323	△7.8%
	うち、経費	210	204	△2.9%	200	+1.8%
	うち、仕掛品振替	5	0	△83.1%	—	—
営業利益		△11	41	—	17	+136.0%
経常利益		△3	44	—	17	+152.5%
当期純利益		△31	42	—	14	+196.8%

(※) 2026年 6 月期第 4 四半期より、単体決算へ移行しており、前期実績および当期実績は単体数値を記載しております。
旧連結子会社の業績影響は軽微であるため、当初予想は、2025年8月14日公表の連結数値を参考として記載しております。

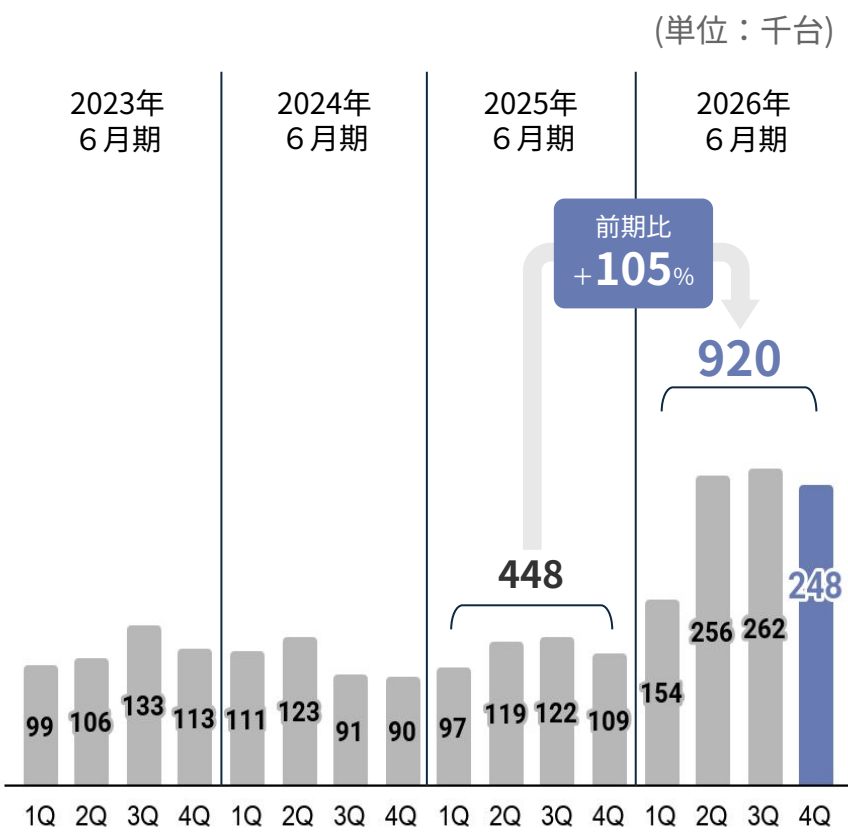
受託開発収入の減少を上回るライセンス収入の増加により、営業黒字へ転換。

(単位：百万円)

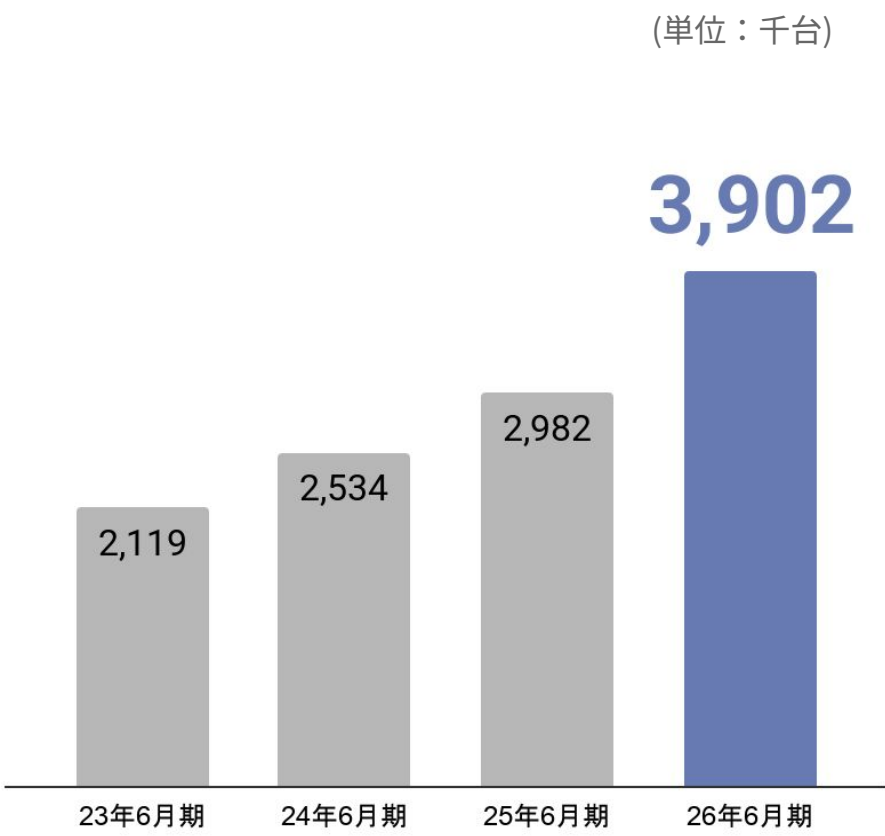


当社ライセンス製品が搭載された新車の量産が前期比+100%超で推移。
受託開発収入とは別に、量産台数に応じてライセンス収入として積み上がる当社収益モデル。

四半期別量産台数



累計量産台数



自己資本比率92.5%と高い財務健全性を維持。

		2025年 6 月期末	2026年 6 月期末	
(単位：百万円)		前期実績	当期実績	前期末との差異
流動資産		687	725	+38
	現金及び預金	592	528	△64
	売掛金	79	180	+101
	その他	14	16	+1
固定資産		40	61	+20
資産合計		727	786	+59
負債合計		42	59	+16
純資産合計		685	727	+42
負債・純資産合計		727	786	+5

- 
1. 通期決算サマリー
2. 2026年6月期（通期）決算概要
3. 各事業の進捗状況
4. 成長戦略と2027年6月期業績予想

Appendix

2つの事業領域を両輪とすることで、品質と拡張性を両立。
業界特化型ソリューションのラインナップを拡充。

Mobility Solutions

高品質な画像認識技術を活用し、
先進的な車載カメラシステムの開発・量産を支援

ADAS

前後左右斜めの死角を網羅する物体検知。
前方車・歩行者衝突、交通違反などの危険運転を
リアルタイムで判定し、事故防止を支援。

DMS/OMS

ドライバーの運転状態や乗員を監視し、危険運転・
事故防止・子ども置き去り防止などを目的としたシ
ステム。顔認証と組み合わせることで、盗難防止、
事業者様の運行管理に活用可能。

DX-AI Solutions

生成AIと画像認識技術を組み合わせ、文書・図面を高
精度に解析。柔軟なカスタマイズで業務効率化を支援

Drawing-AI

電子回路図・建築図面・金型図面など、各図面の
検図自動化、図面情報のデジタル資産化を支援。

AI-OCR

手書き・活字などあらゆる非定型文書を自動認識。
目視確認やデータ入力の工数を大幅に削減。手書き
データのデジタル化にも対応。

DXコンサルティング

車載領域で培った画像認識技術を幅広い用途へ展開。

2つの事業を支える当社の基礎技術

画像認識

コンピュータビジョン

LLM

VLM

ディープラーニング

エッジAI

Agent

アプリ開発

総合的な車両・乗員保護を実現する先進安全技術を提供。独自のアルゴリズムにより、特別なハードウェアを必要とせず、車載器の汎用CPU上で高速・高精度なリアルタイム処理を実現。

ADAS 先進運転支援システム

[概要]

車外環境をリアルタイム解析する物体検知・危険判定ソフトウェア。

[目的]

歩行者・車両との衝突回避、交通違反検知、未然の事故防止。

[主な機能]

- ・前方車衝突警報：先行車・対向車の区別と認識
- ・歩行者衝突警報：歩行者・自転車などの相対距離測定
- ・車線逸脱：車線・路肩の検知と的確な警告
- ・標識検出：標識解読と交通違反検知

DMS ドライバーモニタリングシステム

[概要]

車内カメラでドライバーの顔・視線・骨格などの運転状態をAI監視。

[目的]

居眠り・危険運転の防止、盗難防止、事業者向け運行・安全管理。

[主な機能]

- ・危険運転モニタリング：スマホ操作・飲食・タバコなどの挙動検知
- ・注意散漫モニタリング：顔向き判定による注意喚起
- ・ハンドジェスチャー認識：キャビンカメラで手領域を抽出し、視線移動を抑えた操作による運転負荷低減

OMS 乗員モニタリングシステム

[概要]

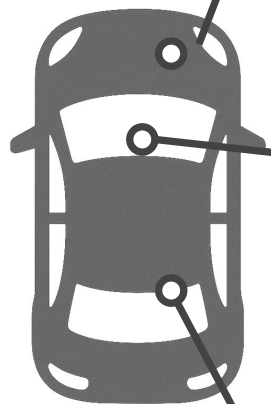
車内カメラで同乗者の体勢、体格、推定年齢などの状態をAI監視。

[目的]

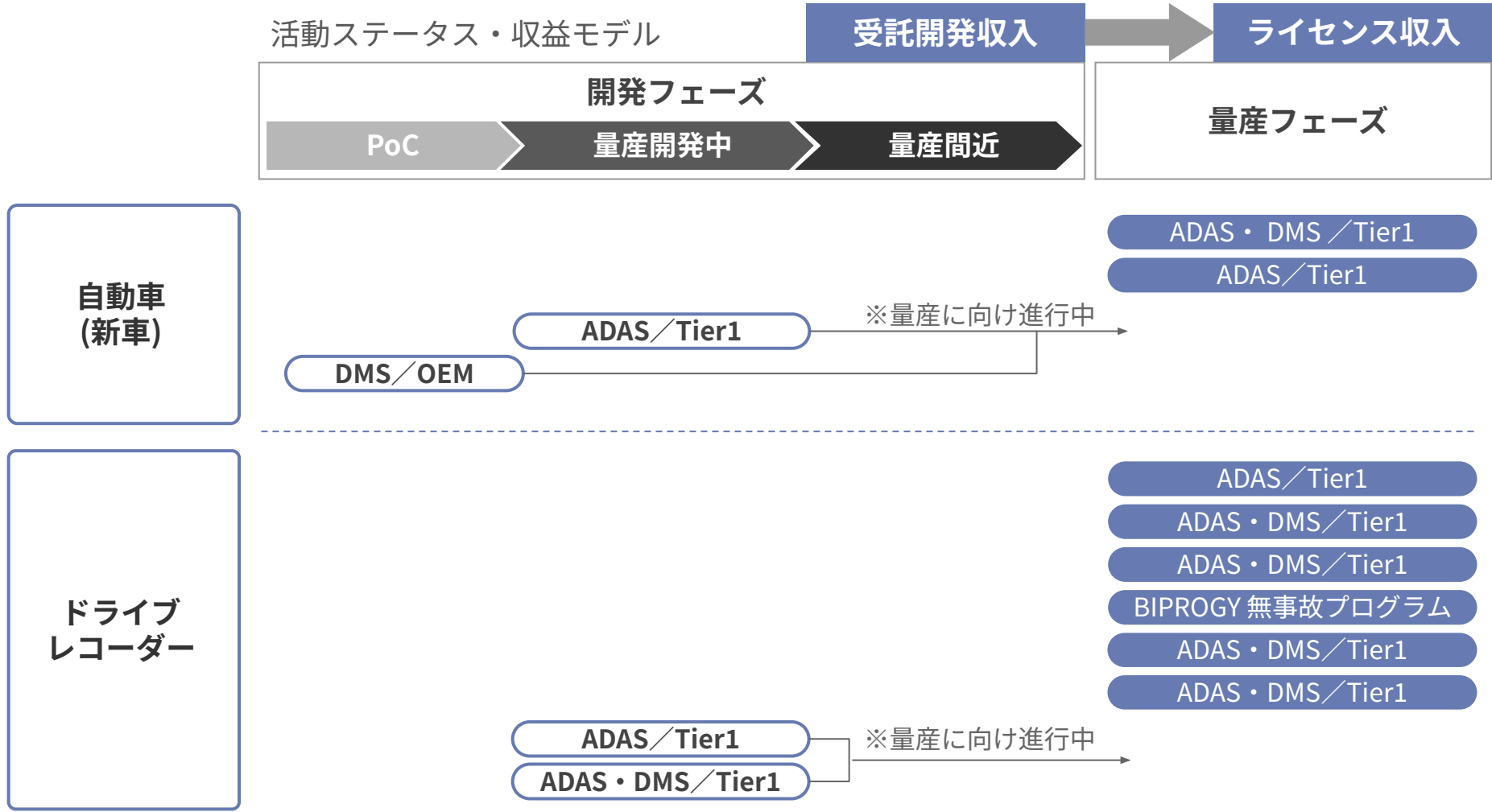
子どもの車内置き去り防止、エアバッグの最適制御、乗員の安全性向上。

[主な機能]

- ・こどもの存在検知：年齢推定による置き去り防止
- ・乗員姿勢検出：エアバッグ効果を阻害する危険姿勢の検知
- ・乗員体格分類：体格・体重・着座姿勢に基づく安全装置の最適制御



量産フェーズ移行に向けた案件が進行中。



生成AI(LLM)と画像認識技術を組み合わせ、業務効率化を支援。



図面解析AIツール **Drawing-AI**

図面を”使える情報”へ。検図を自動化



対象：回路図、建築図面、金型図面など



構成要素・接続関係の自動解析と図示



AIによる要素解説・要約



寸法差異や欠落の自動アラート・リスト化



出力：CAD/CSV/JSON/HTMLなど

手戻り大幅削減・作業時間の大幅短縮



文書解析AIツール **AI-OCR**

複雑な非定型文書も、高精度で自動認識



対象：注文書・請求書・アンケートなど



読取領域の事前設定・ルール設定が不要



生成AI(LLM)による柔軟な情報抽出・構造化



表形式データの読み取りと自動項目特定



出力：Excel・既存システム連携

入力作業削減→業務効率の飛躍的向上

DXコンサルティング

車載領域で培った画像認識技術を応用し、幅広い業務領域の効率化を支援

車載領域で培った画像認識技術を、図面・文書以外にとどまらず幅広い分野へ展開。
共通のコア技術を多様な業務に展開し、現場の効率化を支援。

2026年6月期の主な新規受注案件①

案件カテゴリ		案件概要	2026年6月期末時点 進捗状況
教育関連	AI-OCR	学生の手書き答案用紙を データ化し、採点作業を効率化	開発・提供済
生活インフラ	AI-OCR	構造化された掲示物画像の 文字・記号読取評価	開発・提供済
情報通信業	AI-OCR	PDF文書からの テキスト抽出	開発・提供済
製造業	Drawing-AI	電気回路図の 自動検図システム化PoC	開発済 本実装に向けて提案中

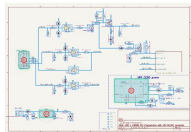
車載領域で培った画像認識技術を、図面・文書以外にとどまらず幅広い分野へ展開。
共通のコア技術を多様な業務に展開し、現場の効率化を支援。

2026年6月期の主な新規受注案件②

	案件カテゴリ	案件概要	2026年6月期末時点 進捗状況
住宅関連	Drawing-AI	平面図・立面図における 実寸の計測	開発・提供済
住宅関連	Drawing-AI	間取り図内における 指定項目の実寸読み取り	開発・提供済
機器メーカー	DXコンサル	既存筐体への 顔認証システムの実装PoC	開発・提供済
機器メーカー	DXコンサル	既存筐体への顔認証・視線解析・ ハンドジェスチャー実装PoC	開発中

リリースから1年を経て、様々な機能をアップデート。
総合検図プラットフォームとして、現在の検図課題に寄り添った幅広い機能を提供。

回路図



[要約・解析]

構成要素の自動要約・説明。部品表の構造化出力。

[変換]

取り込んだPDF(ベクタ・ラスタ対応)をedfなどCAD編集可能な形式で出力。

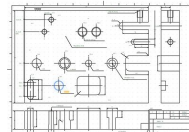
[リスクチェック・改善提案]

設計上のリスクや改善案をリスト化。

[調達数の算出]

読み取った図面に対し、必要な調達部品数及び金額を算出。

金型図面



[基本要素の解析・抽出]

線分・円・円弧などの図形要素と文字情報を自動解析。図面の構造と寸法情報を機械可読な形で把握、紐づけ。

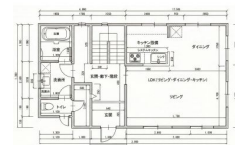
[加工指示認識]

キリ・ザグリなどの加工指示を自動判別。指示の有無や矛盾をチェック対象に含め、修正すべき箇所を明確化。

[自動チェック・重ね合わせ比較]

寸法の抜け・誤り、面取り指示の不足、注記・引出線の欠落をリスト化。

建築図面



[スマート積算AI]

長さ・面積を自動計測。規則性のあるパーツ(窓・ドア・柱など)の自動拾い出し→調達数・見積金額算出。

[実寸計測AI]

ドラッグアンドドロップでの直感的な実寸計測が可能。周囲の寸法を読み取りAIで実寸を算出。

[設備抽出AI]

部屋名・寸法・配置を構造化データとして抽出。実寸の更新や構造化データのダウンロードが可能。

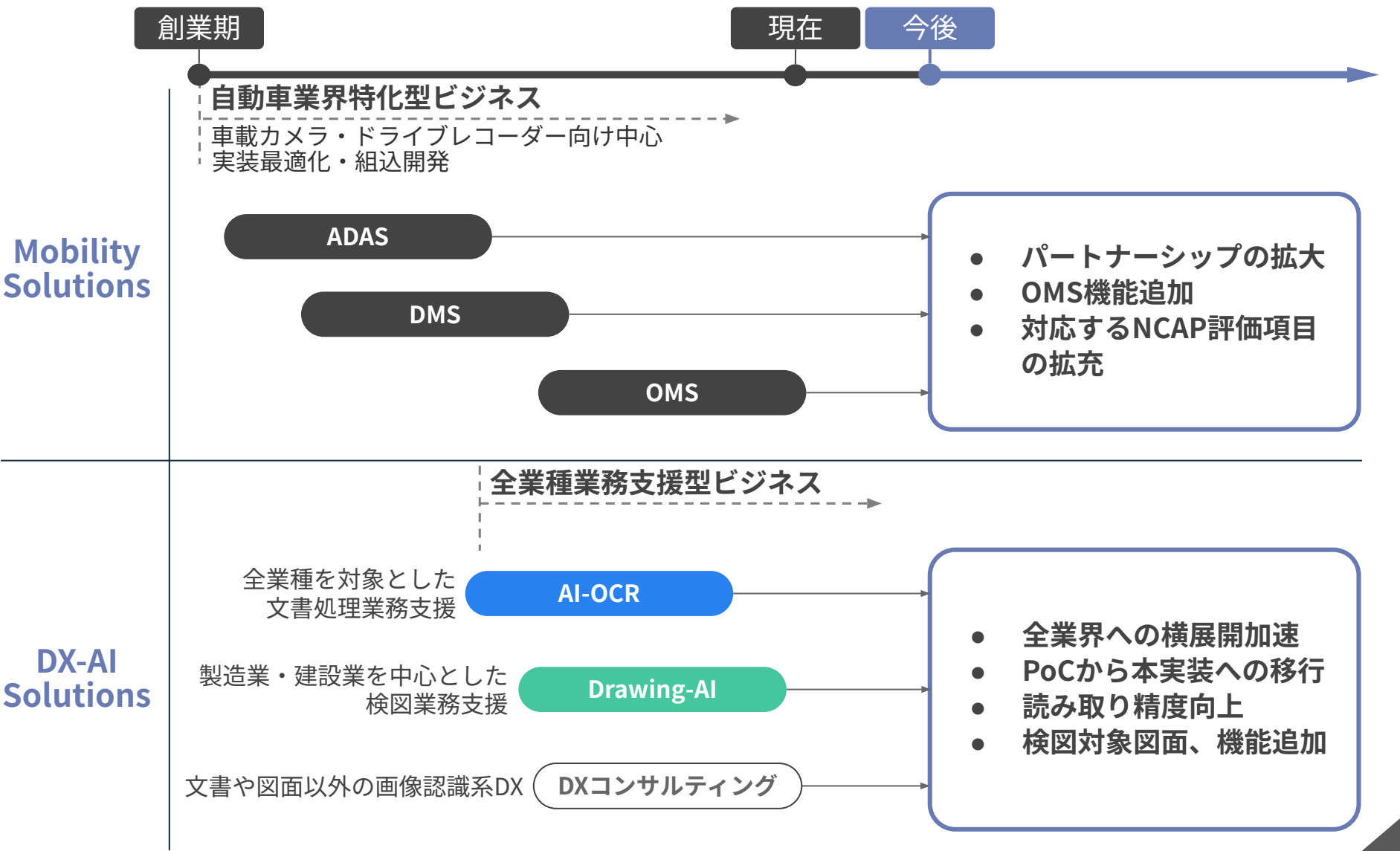
機能
アップデート予定

- 全般的な図面の読み取り、出力精度の更なる改善
- ベクタPDF・3DCAD図面の読み取り強化
- PDF(ラスタ/ベクタ)からCAD図面への変換(座標データなどの保持)

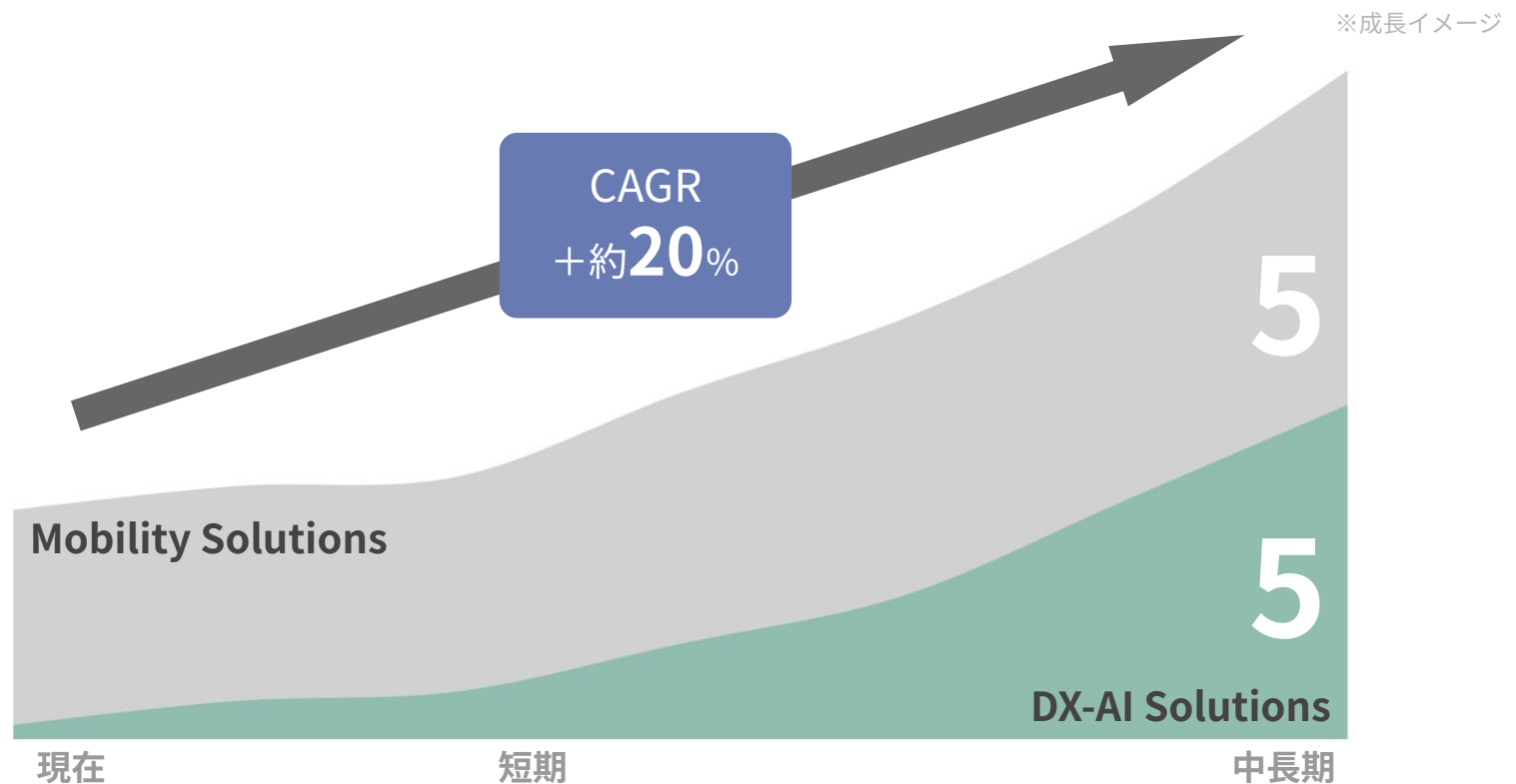
- 
1. 通期決算サマリー
 2. 2026年6月期（通期）決算概要
 3. 各事業の進捗状況
 4. 成長戦略と2027年6月期業績予想

Appendix

2026年6月期は主に製造業・建設業に画像認識×AI技術を展開。多くの引き合いをいただく。



従来のMobility Solutionsの収益基盤を維持・拡大しながら、
中長期的にDX-AI Solutionsの成長を加速させ、売上高構成比 5:5 の事業ポートフォリオを目指す。



自動車業界での画像認識技術は生命を守るための安全性と、 常時稼働が求められる信頼性が絶対要件。

390万台以上の量産実績で培った画像認識技術を武器に、独自のポジショニングでソリューションを展開。
様々なお客様の様々なビジネス課題の解決を支援できる事業基盤を構築。

多様なニーズの最適化

アルゴリズム開発から組込み最適化、アプリ開発、オンプレミス・クラウド環境の構築まで全工程をワンストップで対応。

お客様のニーズを最適化し、拡張性と信頼性を両立したシステムを実現。

独自のコア技術とデータ資産

自社開発の画像認識、マルチモーダルLLMなどのコア技術に加え、多様な領域で専有データと学習済みモデルを保有。

少ない学習データでも即フィットする専用モデルを高速で開発。

ビジネスに直結する課題解決力

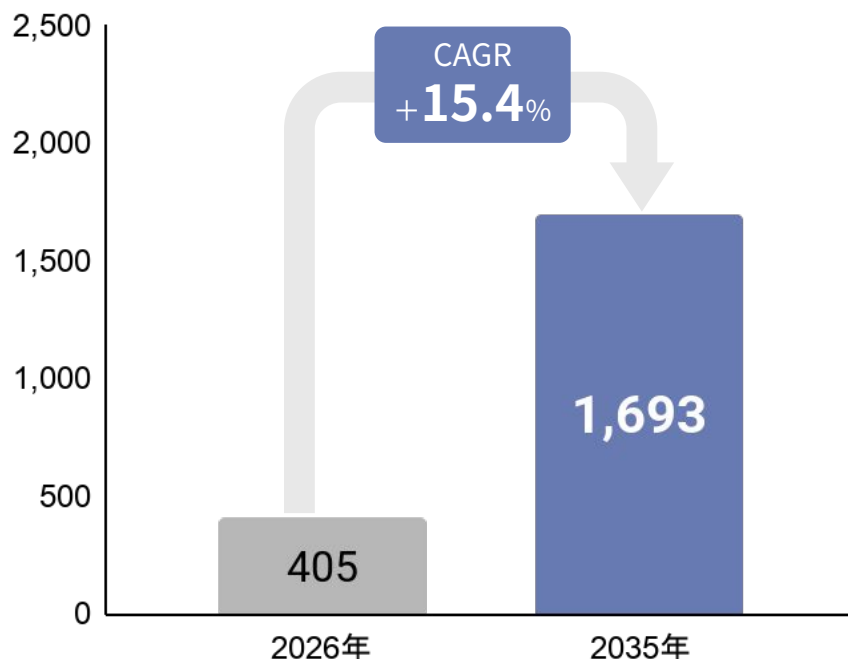
「ROIの改善」「工数削減」などを起点に課題を定義。

要件定義から運用まで伴走し、確実な成果創出を牽引。経営指標の改善、人手不足の業務支援などをワンストップで対応。

自動車・交通関連の高度化に伴い、エッジAIソフトウェア開発が進み、生産台数も拡大が見込まれる。

走行システム・運転支援システム搭載市場 (グローバル・ソフトウェア合算)

単位：億ドル



※出典/参考

[Global Market Insights Inc.]

ADAS市場：乗用車向けADAS市場規模、成長予測2035年

[Verified Market Reports.]

DMS・OMS市場：世界の自動車運転者・乗員監視システム (DMS-OMS) 市場規模より当社作成及び推計

本推移は作成時点で発効・公表済みの規制と今後の諸国の経済情勢や一定の前提に基づく当社試算であり、規制化の時期・適用範囲や各市場の新車販売動向により、実際の結果は大きく異なる可能性があります。

市場の変化予測

安全基準の厳格化と法規制の義務化

特定の安全機能や監視システムの搭載が法的に義務付けられ、規制対応を背景に搭載対象車両の拡大が見込まれる。

AI処理による需要の加速

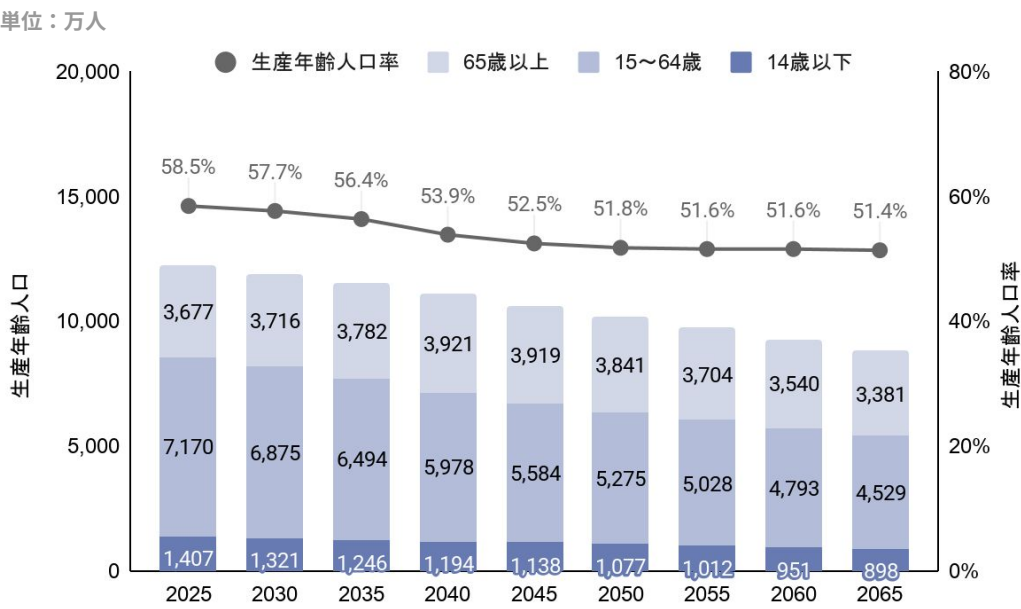
低遅延で、データを端末内で処理できるエッジAIへの需要が増加傾向。当社の軽量アルゴリズムが優位性を発揮。

本実装→量産への本格化

実証実験(PoC)から量産・商用フェーズへの移行が加速。

将来的な生産年齢人口の減少による深刻な人手不足が大きな社会課題。

日本の生産年齢人口
(推計値)



出典：厚生労働省 我が国の生産年齢人口の推移と将来推計 より当社作成
<https://www.mhlw.go.jp/stf/wp/hakusyo/roudou/21/backdata/02-01-01.html>

業種別2035年時点の推計



出典：国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口（令和5年）」2023 | 経産省・厚労省・文科省「2025年版ものづくり白書」2025.6 | 国土交通省「建設業の現状」2026.4 | 内閣官房「2040年産業構造・就業構造の推計」

2027年6月期業績予想（サマリー）

2026年6月期はDX-AI Solutionsをはじめとした成長に向けた事業基盤の構築が進展。
2027年6月期は、Mobility Solutionsで安定収益を確保しながら、DX-AI Solutionsの成長を加速し、
売上・利益のさらなる拡大を目指す。

売上高

620 百万円

前期比：+14.0%

営業利益

50 百万円

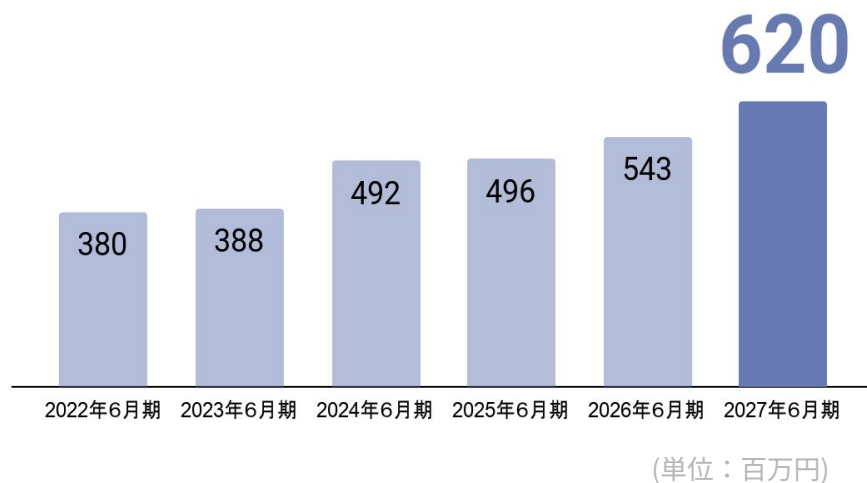
前期比：+22.4%

営業利益率

8.1 %

前期比：+0.5pt

売上高推移



- Mobility Solutionsにおいては共同開発案件の拡大＋ライセンス収入の積み上げで着実に増収
- DX-AI Solutionsにおいては検知精度の強化・集客チャネル拡大で導入を促進し、第2の収益柱として確立する
- きめ細かいコスト管理を徹底し、黒字体質を維持

受託開発収入は、Tier1との共同開発案件の拡大、DX-AI Solutionsの需要増により大幅増加見込み。
ライセンス収入は、顧客とのボリュームディスカウント契約が見込まれることから減収予想だが、
全体の売上高合計としては過去最高をさらに更新。

		2026年 6 月期	2027年 6 月期	
(単位：百万円)		実績	予想	当期比
売上高		543	620	+14.0%
	うち、受託開発収入	277	447	+61.1%
	うち、ライセンス収入	265	172	△35.2%
売上原価、販管費		502	569	+13.3%
	うち、人件費	297	359	+20.8%
	うち、経費	204	210	+2.9%
	うち、仕掛品振替	0	—	—
営業利益		41	50	+22.4%
経常利益		44	50	+13.2%
当期純利益		42	44	+3.8%

- 
1. 通期決算サマリー
 2. 2026年6月期（通期）決算概要
 3. 各事業の進捗状況
 4. 成長戦略と2027年6月期業績予想

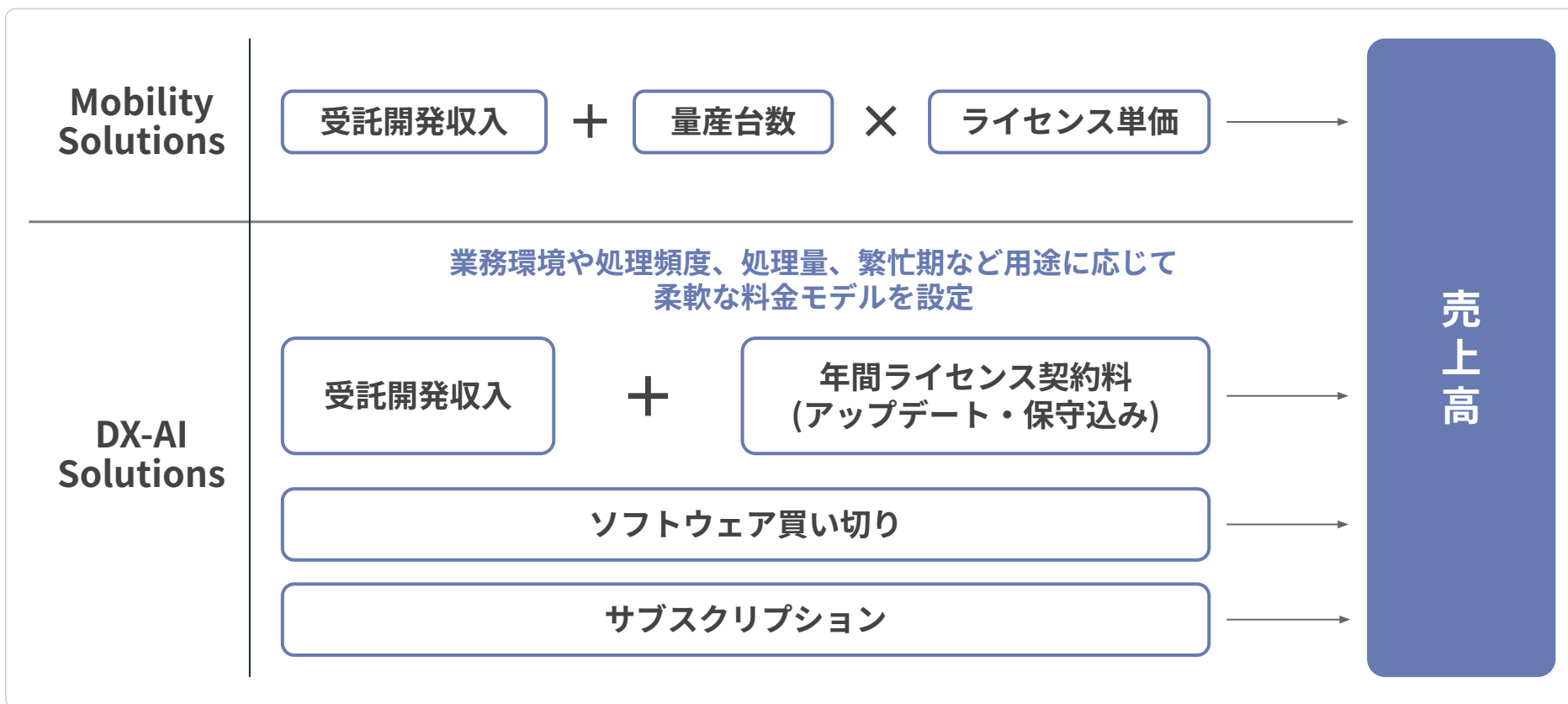
Appendix

会社名	フィーチャ株式会社
代表者	曹 暉（代表取締役社長 CEO 兼 CTO）
所在地	東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60 19F
創業	2005年 8 月
資本金	383,506,174円
上場証券取引所	東京証券取引所 グロース市場（コード4052）
従業員数	44名
事業内容	AI画像認識システムの開発・販売

※2026年 6 月末時点

各事業の収益構造

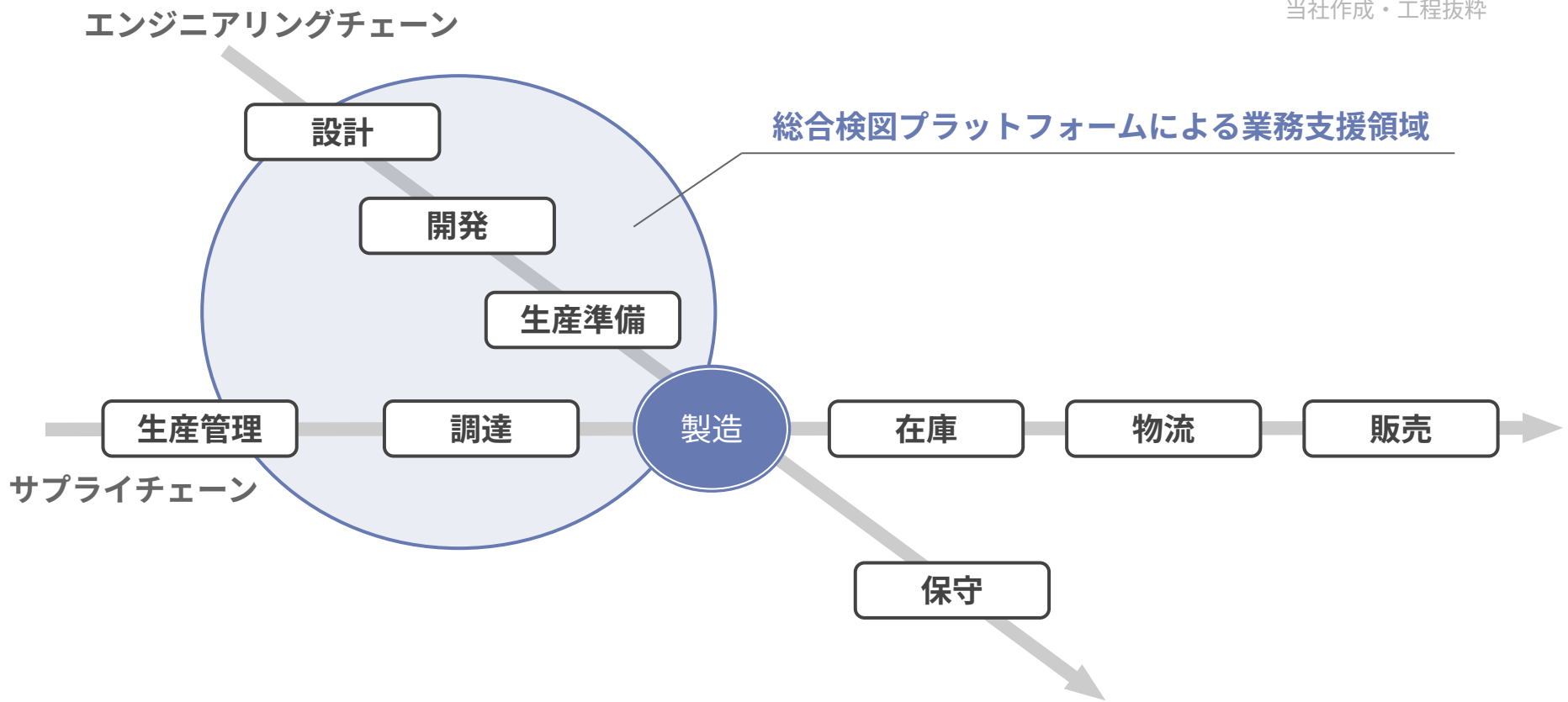
量産を前提とした受託開発収入と、量産台数に連動する継続的なライセンス収入の収益構造。
分野としては、自動車関連等のMobility Solutionsとその他の分野のDX-AI Solutionsで事業を展開。
安定的な成長やR&D投資が可能な収益構造を設計。



- 当社売上高のうち、約40%がライセンス収入
↳ ライセンス収入の粗利率100%
- 量産前提案件に注力し長期的なライセンス収入を狙う
↳ 量産案件の車載製品はライフサイクルが長い

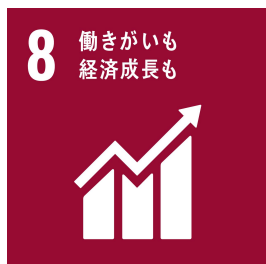
サプライチェーン・エンジニアリングチェーンを軸とした
製造における人的・手戻りリスクのある工程に特化。

当社作成・工程抜粋



当社は、持続可能な開発目標（SDGs）達成のために、社会貢献が不可欠であると認識。
現在、SDGsの全17ゴールのうち、特に関連が深い、以下を優先ゴールとして特定。

優先すべきゴール



- 生成AIと画像認識を用いた図面・文書解析ソリューションにより、検図・確認といった専門業務の省力化と労働生産性の向上に貢献します。
- 製造業や建設業をはじめ、人手不足が深刻な産業の業務効率化を支援し、限られた人材でより高い付加価値を生み出す働き方の実現を後押しします。
- 人の判断を代替・補助するAIの提供を通じ、技術革新による生産性向上という経済成長の基盤づくりに貢献します。



- ディープラーニング・機械学習を用いた画像認識アルゴリズムを自社開発し、産業の技術基盤の高度化に貢献します。
- 限られた計算資源で動作する組込み（エッジ）向け画像認識技術を強みとし、車載・IoT等の幅広い領域への実装を通じて「モノのインテリジェント化」を推進します。
- 研究開発と技術人材を競争力の源泉と位置づけ、継続的なR&D投資により国内の画像認識技術の発展に貢献します。



- 先進運転支援（ADAS）およびドライバーモニタリング（DMS）向けの画像認識技術により、交通事故の低減と、誰もが安全に移動できる環境の実現に貢献します。
- 自社技術が量産車両に実装されることで、研究開発の成果を実社会の安全性向上へ還元しています。
- 安全な移動を支える基盤技術の提供を通じ、持続可能で住み続けられる地域社会の形成に寄与します。

(単位：百万円)

	2025年 6 月期				2026年 6 月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	120	126	157	93	95	109	161	177
うち、受託開発収入	83	87	115	53	46	33	88	108
うち、ライセンス収入	36	39	41	39	49	75	72	68
※売上原価	46	45	51	36	35	16	44	57
売上総利益	73	80	106	56	60	92	117	119
(粗利率)	61.4%	63.8%	67.5%	60.6%	63.4%	84.8%	72.6%	67.6%
※販管費	81	80	74	92	90	88	85	84
うち、研究開発費	33	32	27	44	37	37	24	22
営業利益	△7	△0	31	△35	△29	4	31	35
(営業利益率)	—	—	20.3%	—	—	4.2%	19.3%	19.8%

※売上原価＋販管費合計	127	126	125	128	125	104	130	142
うち、人件費	77	70	71	73	72	71	75	81
うち、経費	50	54	52	63	53	47	51	51
うち、仕掛品振替	0	1	0	△8	0	△13	3	8

本資料は、当社の業界動向及び事業内容について、現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。

これらの将来展望に関する表明の中には、さまざまなリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。

当社の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。

本資料における将来展望に関する表明は、本資料公表日現在において利用可能な情報に基づいて当社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではございません。

フィーチャ株式会社 管理部
E-Mail : management@ficha.jp